

と言って欲しかった。  
もし一部でも再開するということであれば、私の知ってる限り町民の皆さん大反対してま

す。  
今、皆さん方の税金を使って損害賠償の裁判をやっている。

高裁にいけば、また、お金かかります。

そういう中での取り引き再開。

町民の皆さんにこういうことで再開をしたという周知をしていた

だきたい。

△長屋町長▽

停止期間としては一

区切りついた。  
そして延長はできな

い。  
言ってみれば取り引きするしないかは町の裁量でなくていいんじゃないかということだと思ふんですが、この部分がいわゆる法律論と、もう一つは今

係争中でお互いに払え払わないと争っているという時に町と商店との関係はどうあるべきかということなんです。これは法律はありません。

もしあるとすればよく裁判で使われるんですが、法律にないところに法律を裁判官が判断してこうあるべきだと、こういうことで判断すべきだというもの

をだすしかない。  
これは条理という言葉で表されているんですが、いわゆる社会通念上、妥当かどうかという判断。

実は今一番問題にされているのはそこだと思ふ。  
社会通念上それが良いのか、悪いのかということだと思ふ。

再開することが不条理だという意見が非常に多いと思ふ。一方では町の裁量で

この店とはずっと取り引きをしないと、一つの決着がつかずまでやらないということが、じゃあ条理かということですね。

それを考えた時にやっぱり私の判断は全部ではない、一部は再開しましょうと、これは折衷案ではありませんが行政の判断として決めたということなんです。

これはおそらくこれまで行ってもこの部分については見解はあわないでしょうが、やはり行政を預かる立場として、法と条理にのっとって進めなければならぬ選択があるというところで、言ってみれば苦渋の判断をしたということになるかと思ふ。

周知はこういう議会でのやり取りを通じて町民の皆様方に分かっていたら、お知らせしていくということに

なるかと思ふ。  
25日の全員協議会の終わった後に業者の方のお詫びの会見の後、私の方から一部再開したいということをお願いして、

上げて殆どの議員さん方は了承していただいたと考えているところ

# 3月定例会

## 行 政 報 告

### 病院の医師について

△長屋町長▽

病院の医師確保について、このほど整形外科の医師との話がほぼまとまりまして、内諾を議会で公表しても良いとの了解を得ましたのでお知らせを致します。

6月からの勤務を予定しております。相手の先生の立場もありまして、名前の公表はもう少し後にさせていただきます。

### 高校の存続について

△長沼教育長▽

滝上高校の存続に係る入学願書の出願状況についてご説明いたします。

3月1日最終の出願状況が発表されました。滝上高校については定員40名のところ23名の出願でした。

滝上高校の存続につきましては、20人以上の1学年入学者が確保されなければ廃校の検討に入るといふ状況です。何とか23人確保できた。

最終的には5月1日現在の学齢簿等によって20人が確保されなければならぬというところです。もう少し様子を見なければなりません。

出願23人の内訳ですが、滝上中学校から9名、潮見中学校から3名、渚滑中学校から5

名、上渚滑中学校からは2名、紋別中学校から2名、西興部中学校から1名、稚内中学校から1名の23名でした。

滝上中学校の卒業生の数ですが、21名中の滝上高校進学者は9名ということ。地元進学率42・8%ということ。この辺について道教委の方では検討に入る可能性もある大変厳しい状況になっている。

道教委によりますと公立学校の配置計画については、毎年地区別検討協議会で出される意見を参考に翌年度以降3年間の配置計画、更に向こう4年間の見通しを策定して発表することになってまして、平成22年9月には23年から25年の配置計画が発表されています。

滝上高校の所属するオホーツク西学区につ

きましては、23年から25年の3年間についてはいずれも存続の計画ですが、26年から29年までの4年間の見直しも同時に発表されてまして、この4年間で2

ないし3学級の調整が必要という発表でした。この背景にありますのは、中学卒業生の減少です。今、現在620名ほどの中学卒業生が、毎年おりますが、29年には528名になる。

1000名近くの中学生の卒業生が減少する状況です。教育委員会としては、

高校の存続に向けて学力向上対策、通学補助等を中心に高校振興協議会を通じて財政支援をしながら、入学生の確保に努めております。

22年からは滝上中学校からの入学者に対して支援をするというところで、10万円の修学支

援金を支給するという形で何とか確保に努めてまいりました。

これからは高校と中学校の連携を密にして、高校の授業内容を中学生に良く知っていただく上で、進路指導にあたっていただきたいということ。引き続き高校と中学校の連携強化を進めながら何とか滝上高校の存続に向けて努力していきたいと考えてます。



滝上高等学校